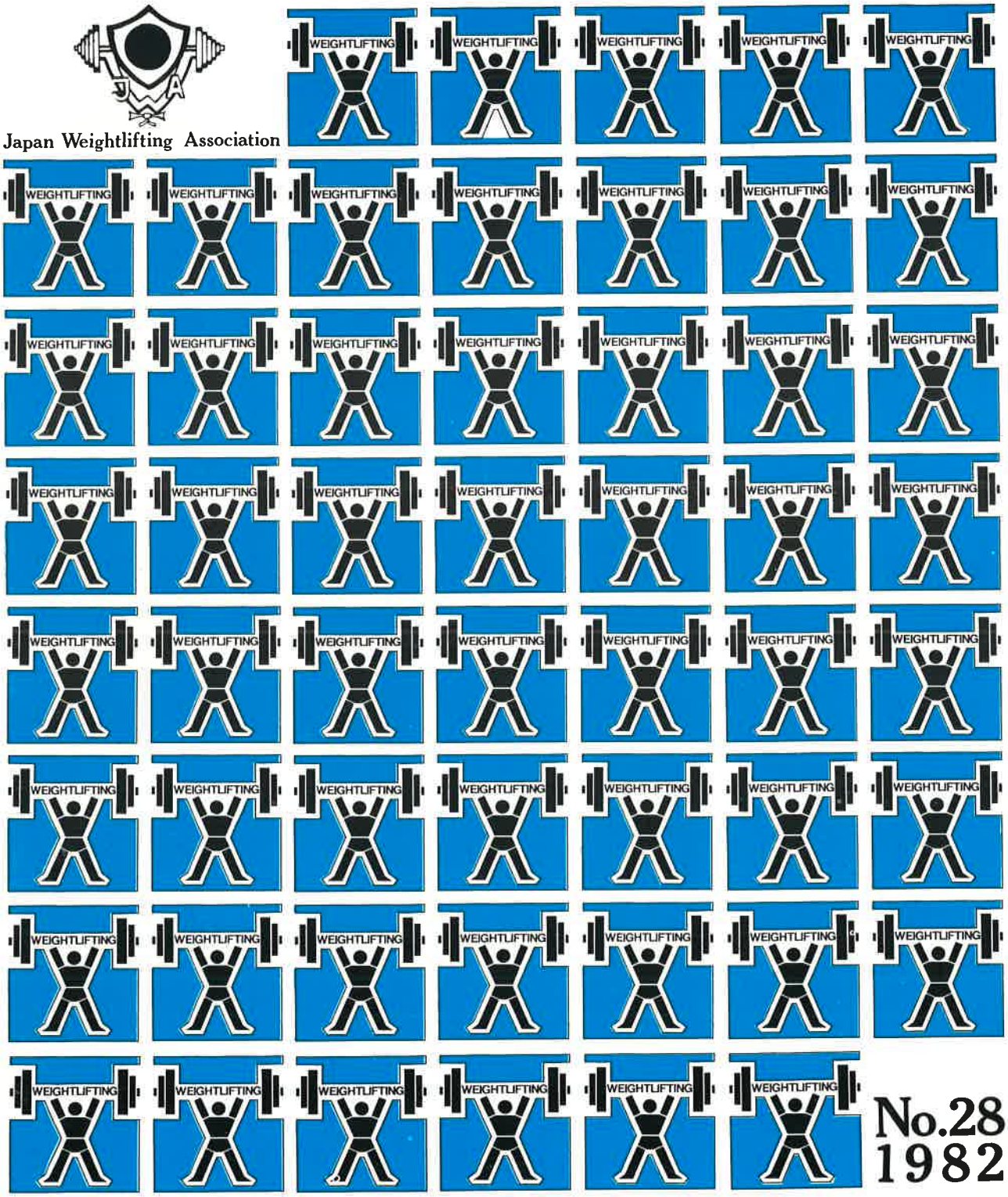
Weightlifting

Japan Weightlifting Association



No.28
1982

舞台は主役を待っていた。

スーパー・チェンジNEWコロナ。
スーパー・ヒーローより愛をこめて。

私のリストにライバルはいない。美しく鍛えあげたスタイル。俊敏な身のこなし。エレクトロニクスという新しい武器。すべてにスーパーという名を冠して、走りのコロナが新登場した。いま、華麗なるドラマが始まる。

●スーパー・チェンジ C_D(空気抵抗係数)0.36の〈スペシャルティ・ハードトップ〉。超ワイド&ローの〈スーパー・セダン〉。
●スーパー・チェンジ 3タイプのレーザー・エンジン。1S・1800、3A-II・1500(セダン)、1Cディーゼル・1800(セダン)を搭載。2000ツインカム、1800EFIもより磨きをかけた。
●スーパー・チェンジ 全車にラジアルタイヤ、ラック&ピニオン・ステアリング採用。GT、SXは4輪独立懸架。
●スーパー・チェンジ 世界初採用※バックソナー(セダン GX-AD)、エレクトロニック・ディスプレイメーター(GT、EX サルーン AD)登場。

Photo:ハードトップ1800EXサルーン ●新装備の機能、取り扱いについては販売店又はセールスマンにご確認ください。 ※オリジナル・エクイプメントとして

レーザーパワーがコロナを変えた。
新技術—時代はTOYOTA

新登場

スーパー・チェンジ
NEW CORONA 1500 1800 2000

目　　次

第11回全日本学生東西対抗ウエイトリフティング大会 …… 2

全国高校総合体育大会 …… 4

第13回アジアウエイトリフティング選手権大会 …… 9

強化合宿便り …… 23

第3回日韓ユース競技大会 …… 26

1981年世界選手権大会 …… 30

TM

チャンピオンプロダクツ
Championproducts
U.S.A.

闘志に似合うのはチャンピオンプロダクツ。

ウェートリフティングといえば、ユニフォームはチャンピオンプロダクツ。その無類のタフネスぶりは、鮮やかなカラーリングは、また自由自在のマーキング・テクニックは、すべて今日の、また明日のチャンピオンたちのために。

GW GOLDWIN
株式会社ゴールドウィン
〒150
東京都渋谷区松濤2-20-6
TEL(03)465-5411(代)

◇第11回全日本学生東西対抗ウェイトリフティング大会

於　愛知県尾西勤労青少年福祉センター（尾西グリーンプラザ）

昭和56年6月28日

52 kg級

順位	氏名	大学名	所属	体重	ベスト S	ベスト J	トータル	成功回数
1	浦田公貴	明治大	東日本	51.50	95	115	210	4（3−1）
2	戸松実	大体大	西日本	50.60	85	100	185	3（1−2）
3	白石伸二	大商大	西日本	51.35	80	100	180	4（2−2）

56 kg級

順位	氏名	大学名	所属	体重	ベスト S	ベスト J	トータル	成功回数
1	中西正明	法政大	東日本	55.60	92.5	120	212.5	2（1−1）
2	磯村篤	大商大	西日本	55.85	95	117.5	212.5	4（2−2）
3	磯部一美	大商大	西日本	55.75	92.5	112.5	205	3（2−1）

60 kg級

順位	氏名	大学名	所属	体重	ベスト S	ベスト J	トータル	成功回数
1	笠松敏夫	法政大	東日本	60.00	105	132.5	237.5	3（2−1）
2	長谷川博一	法政大	東日本	59.15	105	130	235	3（2−1）
3	松井雅和	中京大	西日本	60.00	95	135	230	4（2−2）

67.5 kg級

順位	氏名	大学名	所属	体重	ベスト S	ベスト J	トータル	成功回数
1	平良朝治	法政大	東日本	66.15	110	155	265	2（1−1）
2	城間忠誠	法政大	東日本	64.20	110	145	255	2（1−1）
3	沢久政治	名城大	西日本	63.50	110	135	245	3（2−1）

75 kg級

順位	氏名	大学名	所属	体重	ベスト S	ベスト J	トータル	成功回数
1	成田幸成	日本大	東日本	73.80	115	165	280	3（1−2）
2	橋本昭一	大体大	西日本	72.80	122.5	147.5	270	6（3−3）
3	和田昌樹	大商大	西日本	70.80	120	145	265	5（3−2）

82.5 kg級

順位	氏名	大学名	所属	体重	ベスト S	ベスト J	トータル	成功回数
1	宮城政章	日体大	東日本	80.65	130	165	295	2（1−1）
2	桜井貞実	法政大	東日本	75.40	115	150	265	2（1−1）
3	山林隆	大商大	西日本	81.20	120	140	260	2（1−1）

90 kg級

1	小宮山 哲 雄	日本大	東日本	88.60	**130**	**157.5**	**287.5**	3(1−2)
2	丸 山 卓 也	大商大	西日本	83.10	**105**	**140**	**245**	3(1−2)
3	山 田 一 則	中京大	西日本	82.55	**105**	**135**	**240**	4(2−2)

100 kg級

1	戸 松 伸 隆	日本大	東日本	95.30	**127.5**	**165**	**292.5**	2(1−1)
2	船 越 謙	中京大	西日本	90.30	**115**	**150**	**265**	4(2−2)
3	尾 崎 数 則	中商大	西日本	90.50	**115**	**145**	**260**	2(1−1)

110 kg級

1	高 島 成 和	立命館大	西日本	107.5	**80**	**97.5**	**177.5**	5(3−2)
2	川真田 秀 昭	八 幡 大	西日本	100.6	**75**	**95**	**170**	2(1−1)

◇全国高校総合体育大会

（ 1981年8月2日～5日　群馬県水上町民体育館 ）

“埼玉栄高校団体戦2連覇達成”

団体戦において優勝候補の埼玉栄高校が最終日城西高校の追撃を振り切り，同点ながら上位入賞の差で，昨年に引き続き2連勝を達成した。

インタビュー

＜加藤　仁監督＞

前半は52kg級　吉野孝司と56kg級　森江克幸が順当に優勝し，内心これで優勝が決まったと思ったが，しかし，ライバル校の城西高校が着実に得点をあげてきたので予断が許せなかった。

最終日は90kg級　芦原孝行の貴重な6点確得で同点ながらも優勝できてたいへん嬉しい。

最後まで選手が良くやってくれましたと終始ニコニコ顔でした。

白石嘉宏（武庫工）67.5kg級ジャーク142.5の大会新樹立し優勝した。

2年連続団体優勝の埼玉栄高校

（1981年8月2日～5日　群馬県水上町民体育館）

52 kg級（個人スタート重量　S 60 kg　J 82.5 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	吉野孝司	埼玉	埼玉栄	3	51.95	**190**	**85**	**105**	4	2	2
2	安永浩助	長崎	諫早農	3	51.75	**187.5**	**82.5**	**105**	4	2	2
3	田中重四郎	滋賀	安曇川	3	50.95	**182.5**	**80**	**102.5**	4	2	2
4	山口稔	東京	城西	2	51.50	**180**	**82.5**	**97.5**	5	3	2
5	佐藤好一郎	大阪	大工大	3	49.10	**177.5**	**75**	**102.5**	4	1	3
6	小路幸喜	富山	滑川	3	51.20	**175**	**75**	**100**	3	1	2
7	知念真栄	沖縄	南部工	3	50.20	**172.5**	**75**	**97.5**	2	1	1
8	武者勝徳	群馬	藤岡	3	51.60	**172.5**	**77.5**	**95**	2	1	1

レフリー　S　村田，細谷，望月
　　J　宮崎，小野寺，中条

56 kg級（個人スタート重量　S 65 kg　J 85 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	森江克幸	埼玉	埼玉栄	3	55.55	**207.5**	**92.5**	**115**	5	3	2
2	鈴木北九生	大阪	大工大	3	55.80	**195**	**90**	**105**	3	2	1
3	渡辺晃治	宮城	柴田農林	3	54.75	**190**	**85**	**105**	3	2	1
4	杉山清喜	福井	若狭農林	3	55.05	**190**	**85**	**105**	3	1	2
5	藤田和彦	青森	金木	3	55.05	**187.5**	**87.5**	**100**	3	2	1
6	横田信人	東京	城西	3	55.30	**185**	**85**	**100**	3	2	1
7	池本茂	石川	金沢	3	55.30	**185**	**80**	**105**	2	1	1
8	佐藤正則	山形	羽黒工	3	55.35	**185**	**85**	**100**	2	1	1

レフリー　S　篠宮，宮沢，福田
　　J　関口，池田，戸田

60 kg級（個人スタート重量　S 70 kg　J 90 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	生頼俊秀	兵庫	明石南	3	59.35	**222.5**	**102.5**	**120**	5	3	2
2	成田寛之	青森	柏木農	3	59.30	**215**	**100**	**115**	3	2	1
3	飯島　勉	群馬	藤岡工	3	59.60	**212.5**	**100**	**112.5**	4	3	1
4	三浦健次	滋賀	安曇川	3	59.00	**205**	**90**	**115**	2	1	1
5	城間誠良	沖縄	南部工	3	59.25	**205**	**90**	**115**	2	1	1
6	小見由紀夫	群馬	前橋工	3	59.70	**205**	**90**	**115**	6	3	3
7	寺岡久幸	和歌山	串本	3	59.80	**205**	**90**	**115**	3	1	2
8	大友吉克	茨城	高萩工	3	60.00	**205**	**92.5**	**112.5**	2	1	1

レフリー　S　三木，伊藤，宮沢
　　J　長坂，加藤，細谷

67.5 kg級（個人スタート重量　S 72.5 kg　J 95 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	白石嘉宏	兵庫	武庫工	3	66.90	**250**	**112.5**	**142.5**	4	1	3
2	畑山広英	秋田	秋田工	3	65.10	**227.5**	**107.5**	**120**	5	3	2
3	亀鷹　稔	岡山	倉敷工	3	65.35	**220**	**95**	**125**	3	1	2
4	熊倉　契	栃木	小山	3	66.10	**220**	**97.5**	**122.5**	3	2	1
5	大山光伸	群馬	前橋工	3	66.65	**217.5**	**97.5**	**120**	3	2	1
6	山本　稔	山口	豊浦	3	65.70	**215**	**95**	**120**	2	1	1
7	松本　徹	岡山	水島工	3	66.40	**215**	**97.5**	**117.7**	3	2	1
8	西山浩司	大阪	大工大	2	66.15	**210**	**95**	**115**	3	2	1

(注)　白石嘉宏（兵庫，武庫工）　J 140，大会タイ　142.5　大会新）

レフリー　S　小野寺，中條，宮崎
　　J　望月，村田，福田

75 kg級（個人スタート重量　S 75 kg　J 97.5 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	西山正浩	東京	城西	3	72.10	**250**	**110**	**140**	5	2	3
2	前田修二	三重	日生学園第一	3	74.90	**230**	**100**	**130**	4	2	2
3	斉藤　翁	秋田	大館南	3	69.05	**225**	**97.5**	**127.5**	4	2	2
4	岡山忠広	島根	出雲農林	2	68.55	**215**	**95**	**120**	4	2	2
5	原田　茂	岡山	倉敷工	3	69.55	**215**	**100**	**115**	3	2	1
6	牧野靖広	岡山	水島工	3	73.25	**215**	**95**	**120**	5	2	3

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
7	野村信行	青森	金木	3	72.20	**212.5**	**92.5**	**120**	3	1	2
8	葛生宏司	千葉	八千代	3	73.50	**212.5**	**97.5**	**115**	5	3	2

レフリー　S　関口，池田，戸田
　　J　篠多，宮沢，福田

82.5 kg級（個人スタート重量　S 75 kg　J 97.5 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	山本幸喜	岡山	水島工	3	78.70	**242.5**	**105**	**137.5**	3	1	2
2	清野裕司	福島	福島農蚕	3	81.10	**235**	**105**	**130**	3	1	2
3	秋元昭人	東京	城西	3	80.70	**232.5**	**102.5**	**130**	5	3	2
4	菅原吉和	千葉	八千代	3	76.20	**230**	**100**	**130**	4	2	2
5	村上勝明	愛知	名古屋電気	3	78.35	**230**	**100**	**130**	2	1	1
6	柿木智	栃木	小山	2	76.70	**225**	**102.5**	**122.5**	5	3	2
7	土井恵一	兵庫	明石北	3	75.10	**220**	**100**	**120**	3	2	1
8	西島雅治	滋賀	堅田	3	75.50	**220**	**95**	**125**	4	2	2

レフリー　S　長坂，加藤，細谷
　　J　伊藤，三木，福田

90 kg級（個人スタート重量　S 75 kg　J 97.5 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	水野鉄夫	岐阜	土岐	3	82.70	**252.5**	**112.5**	**140**	6	3	3
2	杉本幸男	和歌山	和歌山工	3	88.90	**247.5**	**117.5**	**130**	4	3	1
3	伊藤淑樹	茨城	高萩工	3	89.45	**237.5**	**105**	**132.5**	2	1	1
4	芦原孝行	埼玉	埼玉栄	3	82.55	**222.5**	**100**	**122.5**	4	2	2
5	桜井剛毅	栃木	小山	2	82.95	**220**	**97.5**	**122.5**	4	2	2
6	山崎徹	山口	豊浦	3	84.25	**220**	**100**	**120**	3	2	1
7	渡辺博行	愛知	名古屋電気	3	82.85	**215**	**92.5**	**122.5**	5	2	3
8	藤本義人	兵庫	明石南	2	88.90	**215**	**95**	**120**	3	1	2

レフリー　S　小野寺，池田，中條
　　J　三木，篠宮，戸田

100 kg（個人スタート重量　S 75 kg　J 97.5 kg）

順位	氏名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	田端英明	三重	亀山	3	90.35	**240**	**110**	**130**	5	3	2
2	生方　力	山梨	日大明誠	3	94.55	**232.5**	**100**	**132.5**	3	1	2
3	中井与志治	滋賀	堅田	3	90.05	**217.5**	**97.5**	**120**	5	2	3
4	足立　浩	埼玉	埼玉栄	2	96.00	**217.5**	**97.5**	**120**	3	1	2
5	岡瀬裕次	大阪	大産大	3	96.25	**215**	**95**	**120**	2	1	1
6	沢田　剛	青森	柏木農	3	90.10	**200**	**85**	**115**	4	2	2
7	田口　仁	岐阜	中津	3	90.35	**192.5**	**90**	**102.5**	3	2	1
8	宮原　訓	福岡	東福岡	3	90.20	**190**	**85**	**105**	2	1	1

(注) 田端英明（三重，亀山）　S **102.5**　大会新

レフリー　S　小野寺，池田，中條
　　J　三木，篠宮，戸田

学校対抗得点表

順位	学校名	県名	参加人数	得点と順位 52kg級	56kg級	60kg級	67.5 kg級	75kg級	82.5 kg級	90kg級	得点合計
1	埼玉栄高校	埼玉	4	9	9				1	6	25
2	城西高校	東京	4	6	3			9	7		25
3	大工大高校	大阪	4	5	7	4	5				21
4	小山高校	栃木	4	1			7		5	5	18
5	明石南高校	兵庫	4			9	4			3	16
6	倉敷工業高校	岡山	4				9	5			14
7	前橋工業高校	群馬	4			6	6	1			13
8	高萩工業高校	茨城	4			5				7	12

◇第13回アジアウエイトリフティング選手権大会

（1981年8月16日～19日　愛知県体育館）

1981年アジア選手権大会は，諸般の事情によるインドネシアの開催返上で急きょ名古屋市においての開催が決定した。地元では，1988年名古屋オリンピック大会誘致の前だけに関係者の熱意がむんむんと感じられた。

本大会は，(財)車両競技公益資金記念財団の助成・名古屋市・愛知県・愛知ウェイトリフティング協会はじめ関係各位のご支援・ご協力により，8月16日から19日までの4日間，愛知県体育館において，IWF会長・事務局長，AWF会長・事務長をお迎えし，盛会裡のうちに開会された。

競技成績をみると，団体戦では日本選手団の活躍もむなしく中国圧勝の内に終り，個人戦においても，56 kg級呉数徳選手（中国）のスナッチ126.5 kg世界新記録樹立を初め中国選手の伸び伸びとした試技が連日会場を沸かした。これが，日本選手団の奮起の材料となり，今後の国際大会での活躍に期待する。

選手団	団長	小宮山　重四郎	監督	福田　弘
	コーチ	菊池　俊美		
	52 kg級	高橋　雅朝	56 kg級	湯地　保雄
	60 〃	椎名　千代美	67.5 〃	島屋　八生
	75 〃	福田　輝彦	82.5 〃	平岡　力
	90 〃	砂岡　良治	100 〃	宮下　覚
	110 〃	大川　克弘	+110 〃	楡原　道雄

開　会　式

第13回アジアウェイトリフティング選手権大会に参加して

監督　福田　弘

1988年のオリンピック開催候補地，名古屋での第13回アジア選手権大会ということで，いく分日本チームの活躍に期待がかけられていた感があっても当然であったところを，中国の団体優勝は当然としても，韓国にも負けて3位に甘んじてしまい，関係各位方々に一抹の残念さを憶えさせてしまったことは，監督としてきわめて無念であった。

期待はずれの結果で終ったとはいえ，酷暑の時期の大会であることをかえり見れば，代表選手諸君がだらしないとばかりいえるものではなく，なかには好調とはいえないながらも自己記録を更新（椎名60kg級スナッチ117.5kg）し，あるいは負傷のハンデに耐えながら不調は不調なりにベストを尽した選手（52kg級高橋……腰痛，67.5kg級島屋……足首の負傷）もいたことを報告したい。

確かに日本選手の勝利に対する欲求と自信が不足し，敢闘精神に気迫が欠けていた面があったことは否定できない。このことについては試合直後の反省会での主要な反省事項として確認し合った訳であるが，これは単に根性が足りないと決めつける問題としてではなく，我々コーチも，どのようにすればリフター達が強烈な勝利欲を奮いたたせることができるか，心理的な考察が必要な課題としてとらえねばならない事柄であった。

場内を沸かせた世界新

さて，反省的記述はこの辺までにさせて頂き，外国勢の活躍に目を転じると，やはり堅実に力をつけてきた中国チームが予想通りの団体優勝を遂げ，おまけに56kg級のウー選手は，スナッチで126.5kgの世界新記録を樹立，かっての日本のスナッチの逸材，三木功司君の120.5kg以来の56kg級スナッチ世界記録をアジア人が奪い返す快挙を成し遂げたことは，同じアジア人として喜びに堪えないことである。願わくばこれに続き，我々のリフターも早期に世界記録更新を達成してもらいたいものである。尚ウー選手はいわゆるフロッグスタイルのリフターであることに注目するのは無意味なことではあるまい。もちろん挙上テクニックには個人差があり，一概に言うことはできないが，可能性としては，スナッチには挙上効率からみるとフロッグスタイルが有利，ジャークのクリーンもフロッグスタイルが効率的には有利な面があるが，長い目で見るとより強力な筋力を必要とするこの種目では，その養成のためにバッタが有利と考えてきたが，これについては全国の指導者の皆様に，より一層の研究を提言したい。

韓国の進歩

中国に次いで団体2位となった韓国は，競技人口僅かに500人という少なさにも拘わらず，ことに重量級でなかなかの強さを見せかろうじてではあるが，我が日本チームを打ち負かし，韓国の強化対策の内容の向上を想像させられた。その中でもジュニア選手である60kg級のリー選手のジャーク155kgは特に立派であり，今後の活躍に注目したい。

ベテラン，トラボルシ大活躍

また，外国選手の中で意外に活躍したのは82.5kg級で優勝したレバノンの，今年31才になった元75kg級ミュンヘンオリンピックメダリストのトラブルシであるが，年令的に記録は頭打ちと見られていたところを，ことにジャークで地力をつけ，優勝候補のワン（中国），そして砂岡を尻目に表彰台の真中に立った。どうやらトラブルシのみならず，アジア選手権はアジア各国のリフター達の刺激となっている印象を強く受けた。

イランが国内政情不安定ということで，参加を辞退したことはやはりさびしいことであり，75kg級で340kg台のアジアで抜群の実力を有するといわれるパキスタンの姿は是非見たかったものである。一日も早く政情が安定して，イランのリフター達がアジアで，世界で活躍できるようになってもらいたいものである。

来年はインドでアジア大会が開催される。韓国に打ち勝ち，中国をも破る意気で頑張るべく，関係各位の叱咤激励を頂きたい。

会　長　挨　拶

IWF事務局長　アヤン氏の挨拶

アジアウエイトリフティング連盟会長　スミスヌント氏
挨拶

各国役員が小宮山会長と名古屋市長を囲んで

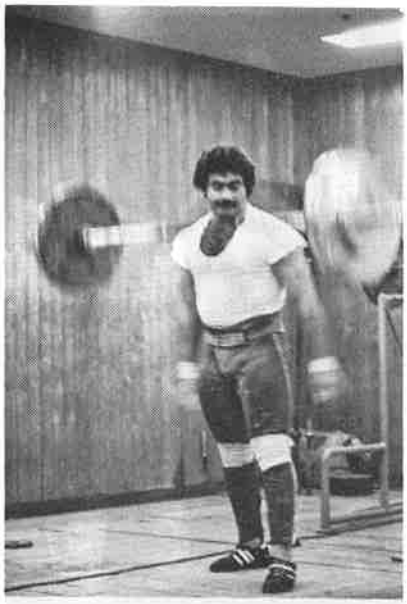
姚景遠の立位体前屈の測定
（右側は趙新民のみごとに鍛えられた背部の筋群）

趙新民（中国）の肺活量の測定

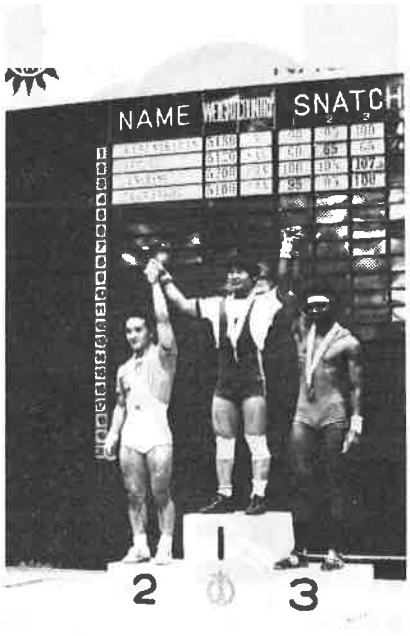
測定員やライバル島屋（日本）の見守る中で姚景遠の握力測定

優勝候補のナジャール（シリア）の 220 kg のスクワット

トラボルシ（レバノン）のスクワットを見つめるコーチ



ハッサム　ホムシ（レバノン）のジャーク。力あまって後に落とす

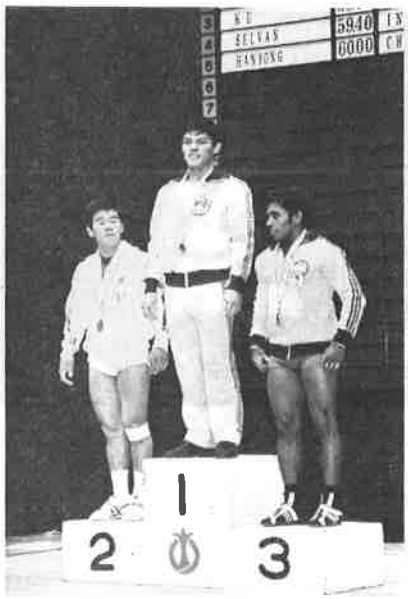


52kg級，期待の高橋は腰痛をこらえての出場，体調が悪く２位に終った

56kg級，呉数徳（中国）は世界新を樹立堂々の優勝　２位　湯地保雄，３位　サトパルイ（インド）

民族衣裳で参加のサウジアラビアチーム

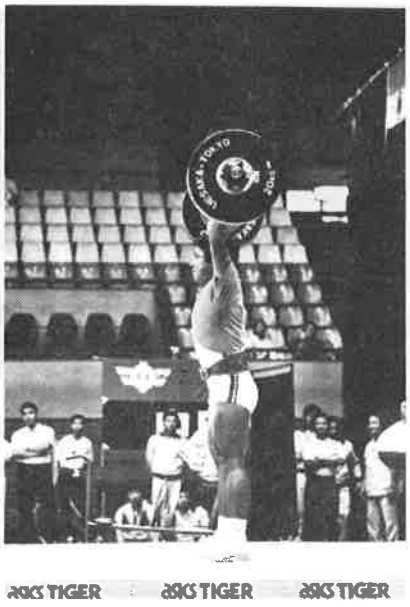
呉数徳（中国）は56kg級スナッチの世界記録126.5を見ごとに成功させる



60kg級，譚漢永（中国）は2位を15kg引きはなして優勝，2位　椎名千代実，3位　セルバン（インド）

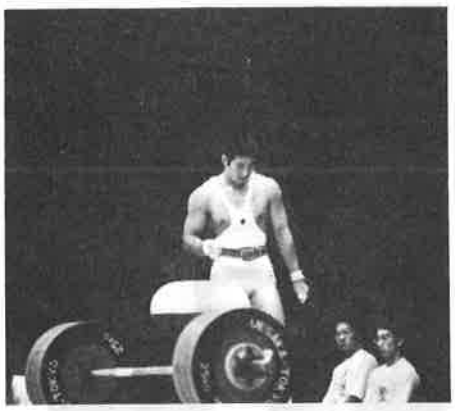
健闘むなしく昨年の67.5kg級覇者島屋（日本）は3位に甘んじる　優勝　趙新民（中国），2位　姚景遠（中国）

75kg級は，ジャークで逆転した李順柱（中国）が初優勝，２位　福田輝彦，３位　朴春宗（韓国）



スナッチ種目で安定した力を発揮し，優勝した福田選手

王国新（中国）を抑えて優勝した75kg級トラボルシ（レバノン）　３位　平岡力（日本）



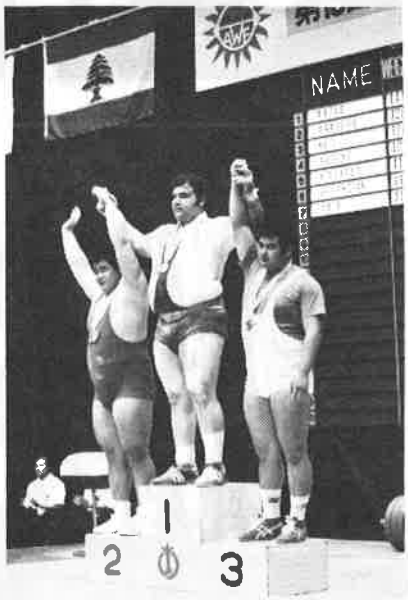
期待の新人砂岡は体調を崩し初失格となる

100 kg級優勝の安智栄（韓国）は，イッサムホムシ（レバノン）と宮下を優勝の台に上げ，友好ムード一杯であった

100 kg級安智栄（韓国）のジャークの判定をめぐって一時中断し，主審にジュリーが判定の確認をしている

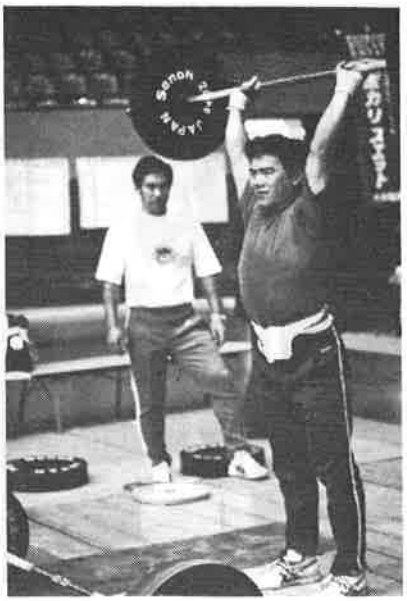
安智栄（韓国）の判定にはビデオを見る一コマさえあった

110 kg級優勝　楊懐慶（中国）
2位　安孝爵（韓国），3位
カデア（イラク）

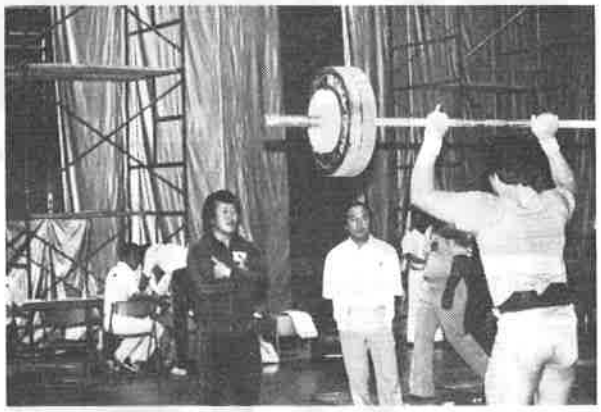


＋110 kg級のナジヤール（シリア）はジャークでアジア新記録の206 kgに挑戦し失敗したが，2位を10 kgはなし堂々優勝した　2位　蒙乃東（中国）
3位　楡原道雄

何やら作戦をたてている福田監督と島屋選手

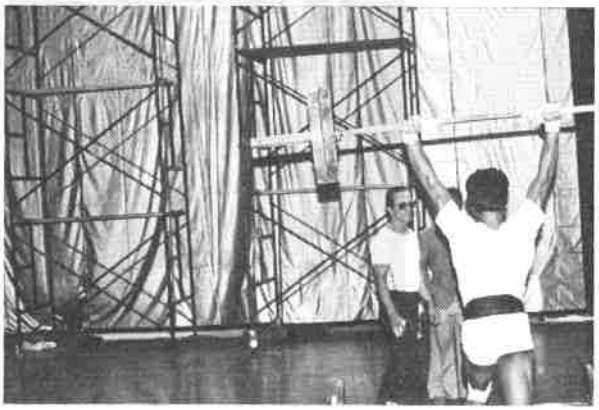


椎名選手を見つめる菊地コーチ

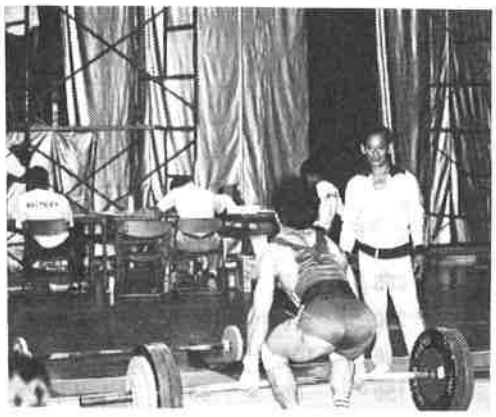


韓国の李コーチの厳しい目

各国コーチの厳しい目



インドネシアのコーチをしているバシャノフスキーコーチ



趙新民を見つめる黄コーチ（中国）

パキスタンチームにアドバイスする黒川コーチ

新鋭ホムシを指導するカイシコーチ（レバノン）

来年のアジア大会開催地に決定したインドのコーチ陣

◇1981年(第13回)アジアウエイトリフティング選手権大会

(昭和56年8月16日～19日　名古屋愛知県体育館)

52 kg

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	Cai Junchen	中国	52.0	**235**	**105**	**130**	5(2－3)
2	高橋雅朝	日本	51.0	**220**	**95**	**125**	3(1－2)
3	Karunakaran	インド	51.80	**220**	**100**	**120**	5(3－2)
4	Mohamed A. Samit	サウジアラビア	51.20	**150**	**65**	**85**	4(2－2)

56 kg

1	Wu Shude	中国	55.80	**260**	**121.5**	**140**	5(3－2)
2	湯地保雄	日本	55.90	**245**	**105**	**140**	3(1－2)
3	Satpathy	インド	56.00	**230**	**100**	**130**	4(2－2)
4	Hadi Wiharja	インドネシア	55.90	**215**	**97.5**	**117.5**	3(2－1)
5	Thangamani	インド	56.00	**210**	**95**	**115**	3(2－1)
6	A. K. Kadum	イラク	55.90	**0**	**0**	**135**	

(注) Wu Shude　特別試技　スナッチ4回目　**126.5**　世界新

60 kg

1	Tha Hanyong	中国	60.00	**275**	**125**	**150**	4(3－1)
2	Lee Yong Ku	韓国	59.80	**260**	**105**	**155**	4(2－2)
3	椎名千代実	日本	59.90	**260**	**117.5**	**142.5**	4(3－1)
4	Chua Koon Slomg	シンガポール	58.90	**240**	**102.5**	**137.5**	4(1－3)
5	Selvan	インド	59.40	**235**	**107.5**	**127.5**	2(1－1)

(注) Lee Yong Ku　特別試技　ジャーク　4回目　**159**　アジア新　失敗
Tan Hanyong　特別試技　ジャーク　4回目　**159**　アジア新　失敗

67.5 kg

1	Zhao Xinmin	中国	67.30	**307.5**	**135**	**172.5**	5(2－3)
2	Yao Jingyuan	中国	67.40	**307.5**	**132.5**	アジア新 **176**	3(1－2)
3	島屋八生	日本	66.00	**300**	**130**	**170**	5(2－3)
4	Lee Sang Sun	韓国	67.20	**280**	**120**	**160**	4(2－2)

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
5	Warino Lestanto	インドネシア	67.50	275	117.5	157.5	3（2－1）
6	Kang Shin Ho	韓国	67.20	265	115	150	2（1－1）
7	Ramon Solis	フィリピン	67.30	257.5	115	142.5	3（2－1）
(注)	Yao Jingyuan	特別試技 ジャーク	4回目	180			

75 kg

1	Li Shunzhu	中国	73.50	317.5	142.5	175	4（2－2）
2	福田輝彦	日本	74.50	315	145.	170	3（2－1）
3	Park Chun Jong	韓国	73.40	297.5	132.5	165	5（2－3）
4	Renato Dio	フィリピン	72.60	257.5	112.5	145	2（1－1）
5	M. Ismail	パキスタン	74.60	225	100	125	4（2－2）
6	Alawi H. Bafakih	サウジアラビア	70.00	170	75.	95	4（2－2）

82.5 kg

1	Mohamed Trablusi	リビア	78.70	330	147.5	182.5	4（2－2）
2	Wang Guoxin	中国	81.90	327.5	150	177.5	4（3－1）
3	平岡力	日本	80.30	315	135	180	4（2－2）
4	Lee Kang Suk	韓国	82.50	307.5	132.5	175	3（2－1）
5	Hwang Woo Won	韓国	82.00	290	125	165	2（1－1）
6	Meharchand	インド	80.60	272.5	122.5	150	3（2－1）
7	M. Zubair Yousuf Butt	パキスタン	80.30	217.5	100	117.5	3（2－1）

90 kg

1	Ma Wenguang	中国	86.00	330	137.5	アジア新 193.5	3（1－2）
2	Lee K. Hyun	韓国	89.50	320	140	180	4（2－2）
3	T. Hasson	イラク	84.20	315	145	170	3（2－1）
4	S. P. Chun	韓国	83.40	305	135	170	5（2－3）
5	M. Tahir	イラク	88.40	302.5	140	162.5	4（2－2）
6	Adi Condro	インドネシア	87.80	277.5	122.5	155	5（3－2）
7	砂岡良治	日本	82.60	0			

100 kg

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	Ahn Ji Young	韓国	94.60	342.5	150	192.5	4（2－2）
2	Issam Homssi	リビア	98.70	335	145	190	3（1－2）
3	宮下 覚	日本	92.60	312.5	140	172.5	3（1－2）
4	Shehab	イラク	91.00	307.5	135	172.5	3（1－2）
5	Tyagi	インド	90.50	255	105	150	3（1－2）
6	Balvinder Sing	インド	94.40	247.5	105	142.5	2（1－1）
7	Aafiz I. Butt	パキスタン	98.00	245	107.5	137.5	5（2－3）
8	Mohammad Muzamil	パキスタン	94.80	240	110	130	2（1－1）

110 kg

1	Y. Huoiging	中国	109.50	340	155	185	4（3－1）
2	Ahn Hyo Jack	韓国	101.50	335	152.5	182.5	4（3－1）
3	M. A. Kadir	イラク	108.70	330	145	185	2（1－1）
4	大川克弘	日本	103.50	320	140	180	2（1－1）
5	S. Singh	シンガポール	108.00	235	105	130	4（3－1）

＋110 kg

1	Talar NaJar	シリア	141.50	347.5	150	197.5	4（2－2）
2	Meng Naidong	中国	127.60	337.5	147.5	190	5（3－2）
3	楡原道雄	日本	112.30	302.5	132.5	170	2（1－1）
4	C. M. Amin	パキスタン	110.50	300	135	165	3（2－1）
5	Jaime Sebastian	フィリピン	113.70	300	130	170	4（2－2）
6	S. M. Said	サウジアラビア	116.00	210	90	120	3（1－2）
7	M. Manssor	イラク	128.80	0	125	0	

閉会式

強　化　合　宿　便　り

8月20日～31日の12日間，群馬県水上町民体育館にて世界選手権代表選手を含むロスアンゼルスオリンピック候補選手と，若年大学選抜選手その合同強化合宿が実施された。

大学生は弱点種目の強化を中心に補強トレーニングで筋力強化を計り，世界代表選手についてはフォームの安定を高めるためのトレーニングを中心に行われた。この成果が世界選手権，国民体育大会等に繋がることを願っている。

トレーニングスケジュール

AMトレーニング　（10：00～11：30）

- ○ストレッチング
- ○オリンピック2種目のテクニック
- ○肩腕部の矯正種目
- ○ジャンピング

PMトレーニング　（3：00～5：30）

- ○ストレッチング
- ○スナッチ or ジャークの補強種目
- ○脚の補強種目
- ○背部，腰部の矯正種目

学習ミーティング　（8：30～9：30）

さわやかな汗が、未来を創る。

発電所から、ご家庭まで―総合設備企業『関電工』

幅広い分野で高い技術を発揮

関電工の工事は多岐にわたっています。発・変電所、送電線などの電力設備、ビル・工場などの動力・照明設備から、ご家庭の電灯・コンセント工事に至るまでのあらゆる電気設備はもちろんのこと、快適な生活環境をつくる空調設備、給排水設備、防災設備、さらには石油・化学プラント工場などの防爆・計装設備等を施工しています。「総合設備企業」として幅広い分野で活躍する関電工の技術は多くの皆さまから高いご信頼をいただいています。

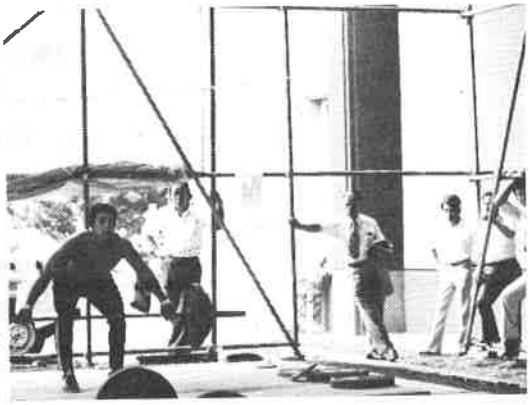
●信頼を高める関電工の施工技術
●屋内線工事　●空調工事　●給排水工事
●プラント防爆工事　●計装工事　●防災工事
●発変電工事　●送電線工事　●配電線工事
●地中線工事　●土木工事　●通信線工事

関東電気工事株式会社
東京都文京区湯島4丁目1番18号 〒113
TEL東京(03)812-5111〈大代表〉

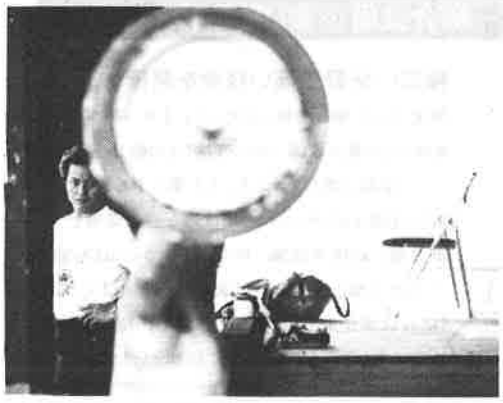
トレーニング前のストレッチング
原（日体大），西川（法大）

村木（日体大）のハイスナッチ

湯地（木村機械）のスクワットを見つめる
山下コーチ

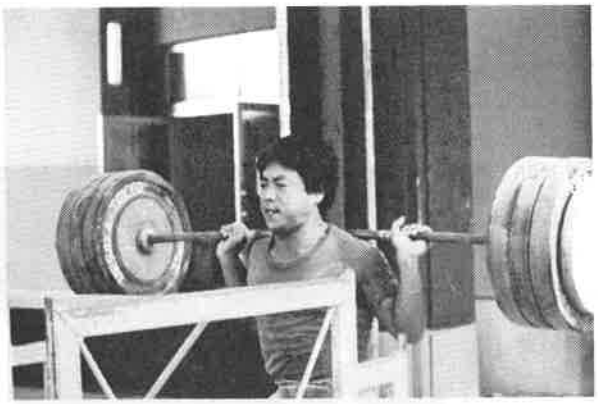


砂岡（日体大）のトレーニングに目を見張る地元
の人達

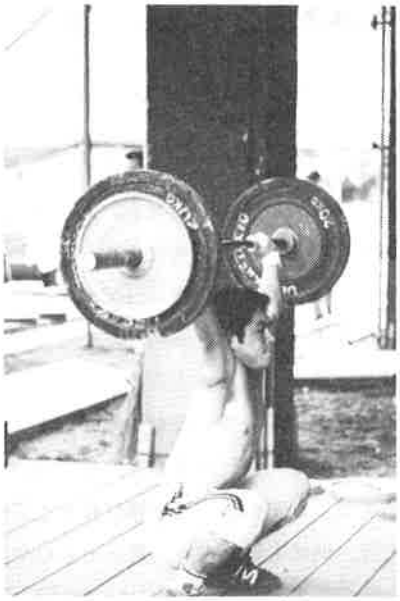


選手を厳しく見つめる福田弘主任コーチ

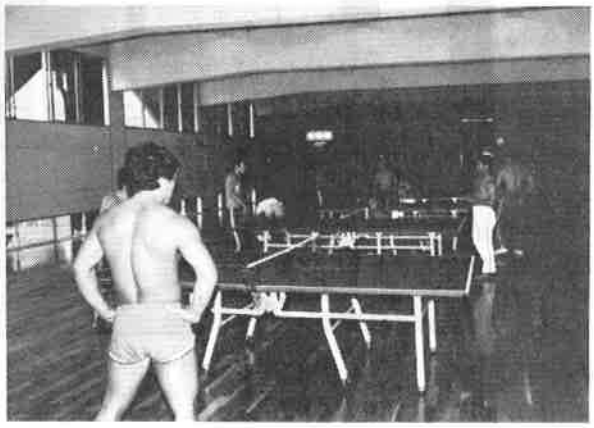
斉藤 徹（中大）のスナッチ 125kg



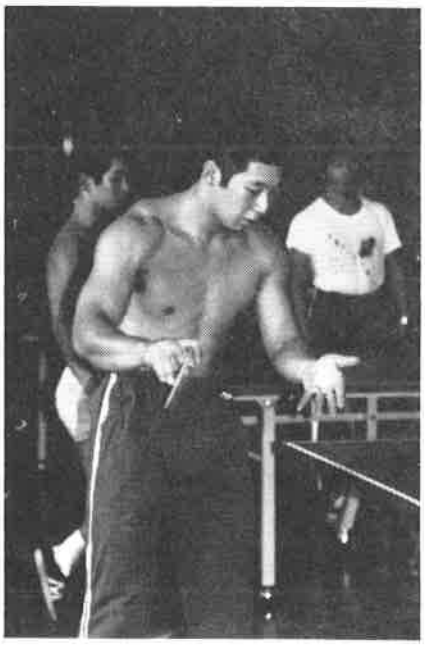
黙々とトレーニングを積む福田輝（木村機械）の
スクワット 200 kg



絶好調であった市場（自衛隊）の
スナッチトレーニング



カウントを取る福田 輝（木村機械）



卓球大会でも健闘した砂岡選手

球技大会終了

◇第3回日韓ユース競技大会

（1981年8月27日～30日　釜山市）

本大会は，8月27日より30日までの4日間という短い期間であったが，選手諸君は殆んどが初めての遠征であったにも拘らず，歴史・風俗の異なる彼の地において，日頃鍛えた実力を存分に発揮するとともに，国内では決して得られない貴重な体験をしたことと思う。

特に，自国を愛し真剣な態度で一日一日を生き抜いている同世代の若者と，ことばの障壁を乗り越えて，お互の心と心を結び合うことができたことは，何にも替えがたい思い出として残るだろう。両国の若者の心の交流がひいては国と国との親善の基盤となることを考えるとき，本大会の意義が極めて大きかったことを，選手諸君と共に喜びたい。

表賞を受ける野中団長

期　日　1981年8月27日～30日

派遣国　韓国釜山市

選手団

団　長	野中　乾	（全国高体連WL部長）
副団長	宮崎　吉之助	（柴田農林高校）
監　督	加藤　仁	（埼玉栄高校J.W.Aコーチ）
コーチ	小菅　富十郎	（小山高校）
	安藤　謙吉	（土岐高校）
選手　52 kg級	吉野　孝司	（埼玉栄高校）
56 kg級	森江　克幸	（　〃　）
60 kg級	生頼　俊秀	（明石南高校）
67.5kg級	白石　嘉宏	（武庫工業高校）
75 kg級	西山　正浩	（城西高校）
82.5 級	山本　幸喜	（水島工業高校）
90 kg級	水野　鉄夫	（土岐高校）
100 kg級	田端　英明	（亀山高校）

釜山市盛知工高体育館

野　中　乾　団　長

概　　要

(1)　両国選手の実力はほぼ伯仲していたようであるが，精神面では韓国の方が若干優っている感じを受けた。

(2)　韓国選手は基礎体力，特に下半身の強靱さが目立ったが，悪条件下でもアップができるような平常の練習の賜と思われる。

(3)　大会運営のしきたりがわが国とだいぶ相違していたのでやや困惑したが，役員諸氏のご協力により順調に推移することができた。

(4)　両国の観戦者のマナーはたいへんりっぱであり，国際親善の成果があがったことを喜んでいる。

(5)　最後に大会役員の方々の誠心誠意のご尽力に対し深く感謝する次第である。

以　　上

兵庫県立武庫工業高等学校３年　　白　石　嘉　宏

前日は，緊張のあまりよくねむれませんでした。

でも，日本代表選手だと自覚し，気持をひきしめて試合に臨みました。会場は中学校の体育館でおせじにも良いとは言えない設備，見物人もほとんどが中学生でした。

会場は，アップ場が外なので雨を心配していたところ，試合開始直前から激しい雨となり，アップ場が階段の下や校舎の陰など，あっちこっちと移動させられ，最悪のコンディションのうちに試合が始ま

りました。

試合前は韓国の選手がどれくらい挙げるのかわからず，少し不安でしたが，試合ではスナッチで10kgの差をあけ，ジャークでは2.5kg挽回されたもののトータルで7.5kgの差をあけなんとか勝つことができました。おかげで思いもよらない最優秀選手賞をいただき，本当にうれしく思いました。

試合後は，ホテルで韓国の選手たちとパーティをひらき，お互いのプレゼントを交換した後，記録のことや，自分の国の音楽や，習慣の違いなどを英語で会話しました。

韓国にいて困ったことは，なま水が飲めないということと，食事があまりおいしくなかったことでした。なま水を飲んだ人はみんなひどい下痢をおこしてしまい，ジュース代が非常に高くつきました。韓国遠征にあたってのこづかいは6万5千円くらい使いました。この大会に参加して良かったことは，知らない土地へ行き多くの友達ができたことです。

高校生最後の夏休みを，この大会に参加することができ，有意義な日々を過ごせたことを幸いに思いました。今回の遠征に参加させていただき，いろいろお世話になった日本重量挙げ協会の皆様にお礼申し上げます。

52 kg

順位	氏　名	国名（学校名）	体　重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	吉野孝司	埼玉栄	51.60	**190**	**85**	**105**	4（2－2）
2	伊永鉉	韓国	51.65	**180**	**72.5**	**107.5**	4（1－3）

56 kg

1	申鍾湜	韓国	55.70	**205**	**92.5**	**112.5**	5（3－2）
2	森江克幸	埼玉栄	56.00	**205**	**92.5**	**112.5**	5（3－2）

60 kg

1	生頼俊秀	明石南	59.20	**215**	**95**	**120**	3（1－2）
2	延禎虎	韓国	60.00	**207.5**	**92.5**	**115**	2（1－1）

67.5 kg

1	白石嘉宏	武庫工	67.50	**242.5**	**105**	**137.5**	3（1－2）
2	朱寧照	韓国	67.20	**235**	**95**	**140**	3（1－2）

75 kg

順位	氏　名	国名（学校名）	体　重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	韓　晶	韓　国	74.20	**252.5**	**107.5**	**145**	3（2－1）
2	西山正浩	城　西	74.00	**250**	**112.5**	**137.5**	5（3－2）

82.5 kg

1	山本幸喜	水島工	81.50	**247.5**	**105**	**142.5**	4（1－3）
2	鄭　止厚	韓　国	75.50	**0**			

90 kg

1	金　学亮	韓　国	85.00	**260**	**110**	**150**	3（1－2）
2	水野鉄夫	土　岐	83.50	**250**	**110**	**140**	4（2－2）

100 kg

1	金　鎮錫	韓　国	90.20	**240**	**100**	**140**	4（2－2）
2	田端英明	亀　山	93.00	**235**	**105**	**130**	2（1－1）

110 kg

1	李　在浩	韓　国	100.20	**235**	**100**	**135**	5（2－3）

＋110 kg

1	李　載実	韓　国	120.50	**175**	**75**	**100**	5（2－3）

◇ 1981年世界選手権大会

（1981年9月11日～20日　フランス・リール市）

大会マーク

派遣国　フランス国　リール市

代表選手団

監督	福田　弘（競技力向上委員）	
コーチ	関口　脩（日体大・教）	
レフリー	中西藤好（大阪産大・教）	
選手	52 kg級	真鍋和人（一宮グループ）
	56 kg級	小高正宏（日体大）
	75 kg級	福田輝彦（木村機械）
	82.5 kg級	砂岡良治（日体大）

派遣期間　昭和56年9月7日～22日

今回の日本代表選手は，ロスアンゼルスオリンピックを目指す若手リフター4名であり，全員世界選手権初出場であったが，8月下旬から水上町，浦和市での2回にわたる調整合宿を重ね現地に着いても伸び伸びと調整することができた。試合においては，真鍋選手の安定感あふれる試技でスナッチ，ジャークの種目別第3位，総合で第3位の成績を筆頭に全員の活躍が目立った。特に学生で初出場の砂岡，小高両選手は競技における体重差，2.5kg差の厳しさ，重さを今更ながら身を持って経験したことであろう。

次回の大会にぜひ生かし，オリンピックを目指して大いに飛躍してもらいたいものである。

1981年度世界選手権大会に参加して

監督　福田　弘

真鍋予想外の3位！

日本が世界選手権大会に参加するようになって以来，もっとも小規模なチーム（役員3名，選手4名）となり，しかも選手全員が世界選手権大会初出場という，例外的なチーム編成となったため，当初その活躍にいくばくかの心配があったというのが，いつわりのない心境であった。

ところが，出発前の合宿で好調であった52kg級の真鍋君は，その心配をよそに見事トータル240kgの日本新記録を樹立，スナッチ，ジャーク，トータルともいずれも銅メダルを獲得，予想以上のさい先よいスタートをきってくれた。とはいえ，競技開始直前に下腿に軽いけいれんを起こし，関口コーチがその処置に大童わとなり，結果としては大事に至ることなく好成績を収めることができたエピソードが裏にあった。

可もなく不可もなかった他の3選手

率直にいって，他の3名の選手は，試合前の節制には全員が十分に気を配り，各々がベストを尽そうとしている様子が読みとれたものの，ベストコンディションに到達することなく，心身共に初出場の不安と期待を制し切ることができなかったようである。

体調十分であった真鍋君以外の選手達が期待する程の成績を得られなかったことには，それはそれなりの理由があり，例えば75kg級の福田，82.5kg級の砂岡の両君は，夏に弱い方でありながら，8月のアジア選手権をはじめ，ビッグイベントが続いたための疲労とマンネリが影響していた。

近頃，協会上層部の努力によって，海外交流が多くなり，リフター達の刺激となっている反面，その割に人材が不足しているため，トップクラスのリフターには，遠征の常連としていきおい負荷がかかってしまう傾向が見られる。そろそろ国際試合の参加数を制限し，十分な考慮を払った年間競技会計画を前年度中に作成しなければ遅すぎてしまう時期にきていると思わざるを得ない。

負傷者続出の大会

世界選手権大会といえば，私自身が選手として参加した最後の大会が1965年のテヘラン大会であったが，今回16年ぶりに役員として参加でき感慨新たなものがあった。ところがそれも束の間で，大会が幕を開けると次々と負傷事故が発生，あきれる程数多く，恐らく平均して1体重階級につき1～2名は確実に負傷者がいたのではなかろうか。

そのうちの1人にナイジェリアの選手がいたが，それはバーベルをひざに落とし，手術を要する全治2カ月の重傷を負ったもので，これは不注意が原因とみられたが，その他の負傷はほとんどが単なる不注意ということではなく，他の原因，例えば薬物使用の影響，筋力のアンバランスな発達，テクニック上のミス等々が原因として考えられるものであった。

67.5kg級のゴンザレス（キューバ）スナッチ147.5kg，2回目の試技でバーベルを頭上後方に支持する瞬間ボキッと鈍い音を立てバーベルを落とし，リング前方に転がるようにひじをかばいながら倒れ，絶叫。100kg級モスクワオリンピック金メダリスト，ザレンバ（チェコ）スナッチ1回目185kgでゴンザレスと似たようなパターンで，同じくひじを負傷，それにもかかわらず2回目も挑戦．今度はスローモーションフィルムで見ると明らかにひじがはずれ，ブラブラになってしまい，バーベルが後頭部を打ちつけて落下という危険な試技を演じ，もちろん3回目は棄権せざるを得なかった。

トップクラスのリフター達が，痛めた腕を首からつるし，ビッコ気味で弱々しく歩く姿は，必ずしも雄々しいものではないが，とも角，第3者にはウェイトリフティングは危険なスポーツという印象を与えたであろう。多分，これを契機に各国の関係者達は，真剣な傷害予防に取り組む必要を感じ取ったのではなかろうか。

意外な新チャンピオン

今大会でもっとも迫力のある好試合を演じたのは60kg級であった。優勝筆頭候補の新進気鋭，ソ連のサルキシヤンが3位に甘んじ，キューバのヌネスがトータル302.5kg（135＋167.5）の世界新記録で優勝確実かとみられたところ，ブルガリアの慧星マノロフがヌネスと同記録のトータル302.5kgの世界新記録（132.5＋170）で並び，体重差で優勝を奪い取ってしまった。まさにどんでんがえしの最後まで，誰が優勝するか分からない世界新記録のデットヒートであった。

一方，67.5kg級から75kg級に転向したブルガリアのルセフは，このクラスでも貫録を示し，トータル360kg（157.5＋202.5）の世界タイで優勝，ジャークの特別試技で206kgの世界新記録を樹立した。尚，ルセフと2位に入賞したソ連のペルビは，ジャークの規定3回の試技のなかで207.5kgの世界新記録を頭上に支え，ほぼ成功したかのところまでいったが，惜しくも判定で失敗となった。

82.5kg級のスーパースター，ソ連のバルタニヤンは，モスクワオリンピック優勝以来鳴りをひそめていたが，確実に力をつけて登場，スナッチ178kg，ジャーク223kgの世界新記録を樹立，特にジャークでは恐らく225～227.5kgぐらいは挙上できるのではないかと思わせられた程の余裕があった。

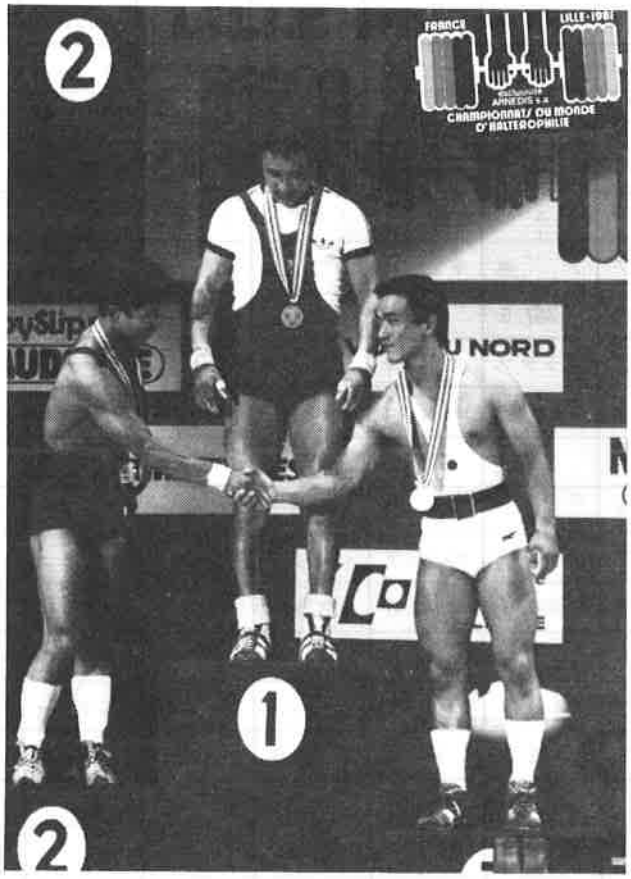
90kg級では，82.5kg級から転向したブルガリアのブラゴエフがスナッチ185kgの世界新記録，トータル404kgの世界タイ記録をマークして優勝したが，100kg級以上は内容的に較べると82.5kg級以下の階級より劣り，興味が半減した。とはいえ，スナッチ170～180kg，ジャーク220～230kg以上への挑戦が次々となされている様を見ていると，日本のリフターがなぜ200kgぐらいの軽いバーベルを挙上できないのか不思議に思わされてしまう迫力だけはあった。

大会成績

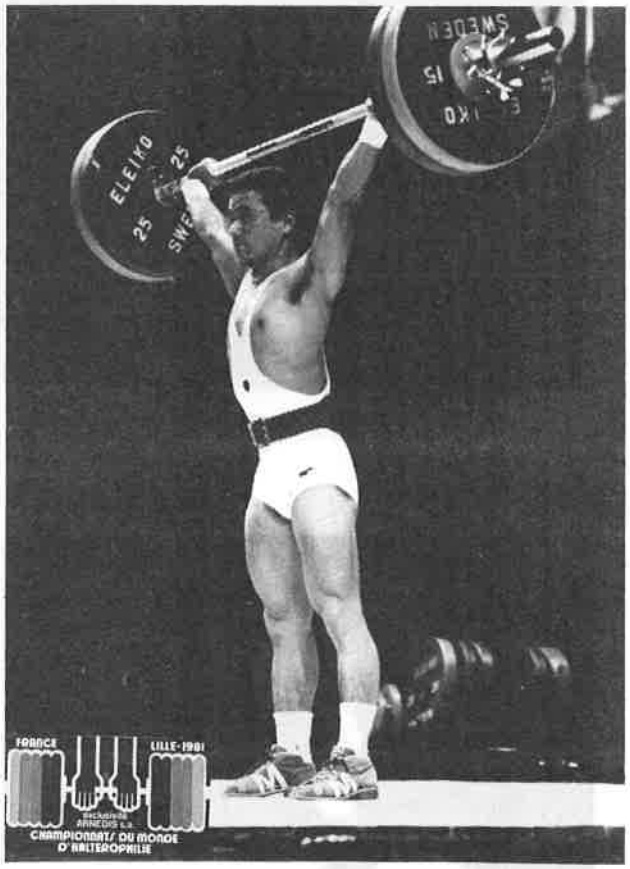
階級	順位 区分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
52	氏名	オスモノリエフ	ガトウスキー	真鍋	オラタン	ツアイ	パトロビッチ	ダルヤ	
	国名	ソ連	ポーランド	日本	ハンガリー	中国	中国	ハンガリー	イスラエル
	記録	247.5	240.0	240.0	235.0	232.5	230.0	225.0	212.5
56	氏名	コジャバジェフ	レッツ	ザハロフ	ステファノビッチ	ウー	ホルニヤク	ヤン	ソラー
	国名	ブルガリア	東独	ソ連	ハンガリー	中国	ハンガリー	北朝鮮	キューバ
	記録	272.5	272.5	265.0	257.5	257.5	255.0	255.0	250.0
60	氏名	マノロフ	ヌネス	サルキシャン	ベム	パウラク	タン	ザジエル	チャン
	国名	ブルガリア	キューバ	ソ連	東独	ポーランド	中国	ポーランド	中国
	記録	302.5	302.5	295.0	282.5	280.0	277.5	277.5	267.5
67.5	氏名	クンツ	バショフ	セネ	ラディンスキー	ドチウ	チャオ	ピアロース	レスボウリトス
	国名	東独	ブルガリア	フランス	西独	ルーマニア	中国	オーストリア	ギリシャ
	記録	340.0	330.0	320.0	312.5	312.5	297.5	287.5	287.5
75	氏名	ルセフ	ペルビ	エチェニキ	ネグアー	クベンカ	クラチェク	シオロスラン	バラナヤイ
	国名	ブルガリア	ソ連	キューバ	西独	東独	ポーランド	ルーマニア	ハンガリー
	記録	360.0	357.5	340.0	340.0	335.0	330.0	325.0	320.0
82.5	氏名	バルタニヤン	ズラテフ	ポリヤッキ	リンウスキー	アルチモウィッチ	マンザク	ソレビ	コーエン
	国名	ソ連	ブルガリア	チェコ	ポーランド	ポーランド	ハンガリー	スエーデン	アメリカ
	記録	392.5	372.5	367.5	357.5	350.0	342.5	332.5	330.0
90	氏名	ブラゴエフ	ザハロビッチ	ウシェロフ	ピオトロウスキー	バザコ	スラセン	レフス	イリアデス
	国名	ブルガリア	ソ連	ブルガリア	ポーランド	ハンガリー	チェコ	ハンガリー	ギリシャ
	記録	405.0	397.5	380.0	375.0	372.5	365.0	355.0	340.0
100	氏名	ソトス	マチキウィッチ	オシコウスキー	コマール	ヘニング	フラバチ	マイケルス	ラングフォード
	国名	ソ連	チェコ	ブルガリア	ポーランド	東独	ハンガリー	アメリカ	イギリス
	記録	407.5	392.5	387.5	385.0	385.0	382.5	357.5	355.0
110	氏名								
	国名	ソ連	ソ連						
	記録	415.0	412.5						
＋110	氏名	ビサレンコ							
	国名	ソ連							
	記録	425.0							

日本選手の成績

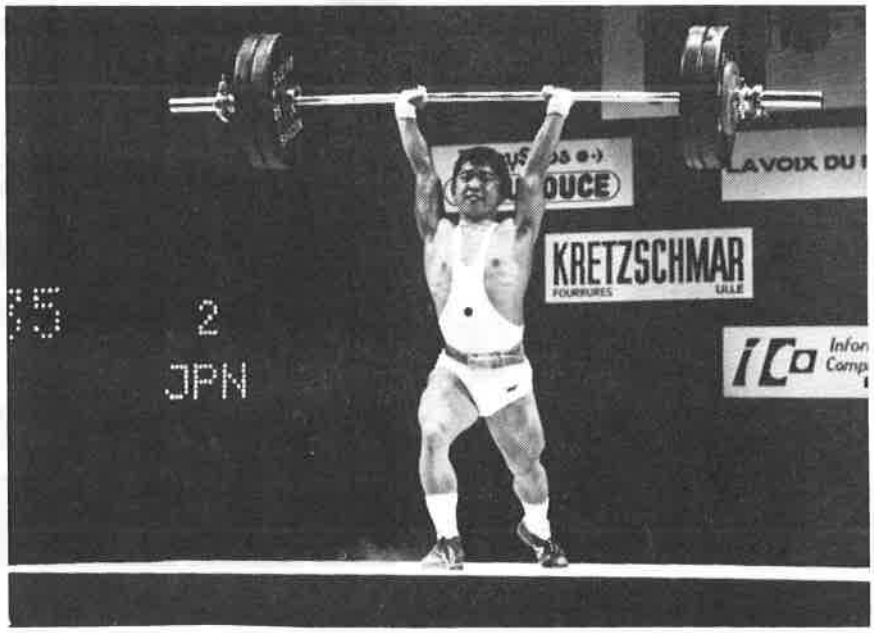
階　級	氏　　名	成　（記　録）　績						備　　考
		スナッチ	順位	ジャーク	順位	トータル	順位	
52 kg級	真　鍋　和　人	107.5	3	132.5	3	240.0	3	トータル日本新
56 kg級	小　高　正　宏	110.0	8	135.0	9	245.0	9	
75 kg級	福　田　輝　彦	142.5	12	175.0	11	317.5	9	
82.5kg級	砂　岡　良　治	145.0	11	180.0	12	325.0	11	



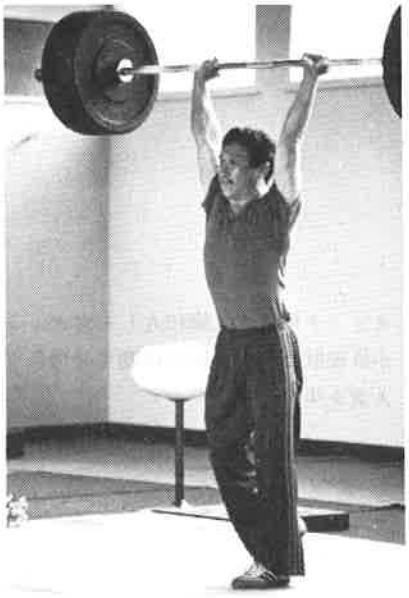
52 kg級で堂々３位入賞を果した真鍋和人選手



スナッチ種目で真鍋和人（一宮グループ）が最後試技 107.5 kg を成功させ種目別3位入賞を決定した。

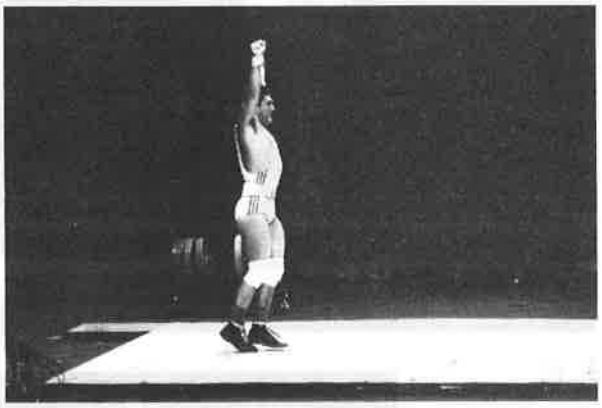


初出場ながら健闘した小高正宏（日体大）のジャーク 135 kg



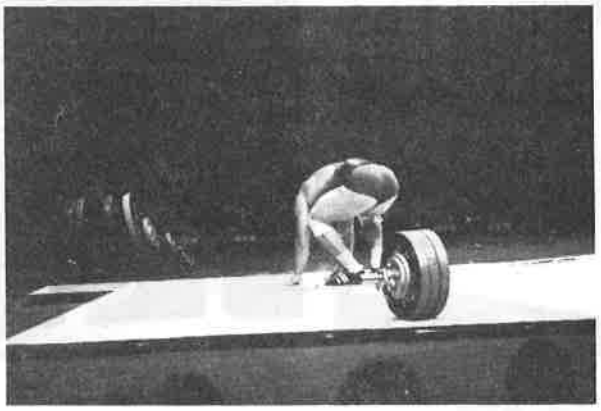
52 kg級の覇者オスモナリエフ（ソ連）の調整練習

喜びを身体一杯に表わすサデロポロス（ギリシャ）

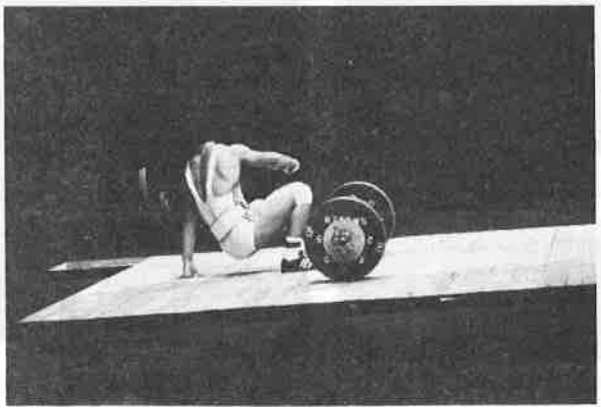


60 kg級で逆転優勝し喜ぶマノロフ（ブルガリア）

記念撮影するアメリカチーム

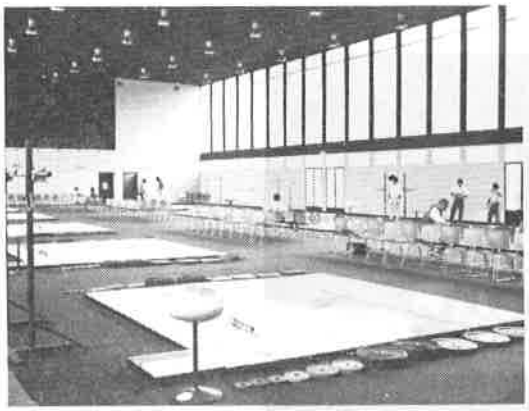


全力をふりしぼり3回目ジャーク190 kgを成功させ，やっと優勝をきめた67.5 kg級のクンツ（東ドイツ）

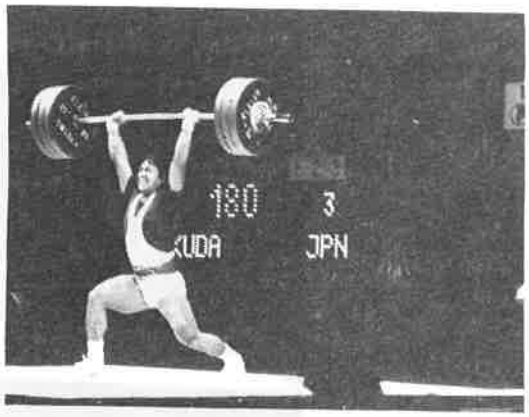


もう一つ振わなかったジュニアチャンピョン
67.5 kg級バショフ（ブルガリア）

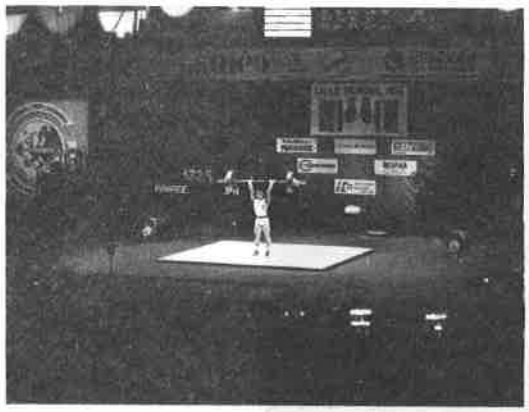
堂々＋110 kgで優勝したピサレンコ（ソ連）



ゼネラルトレーニングハウス
10面のリングを敷つめた広い練習場



75 kg級福田輝選手の力強いジャーク 180kg



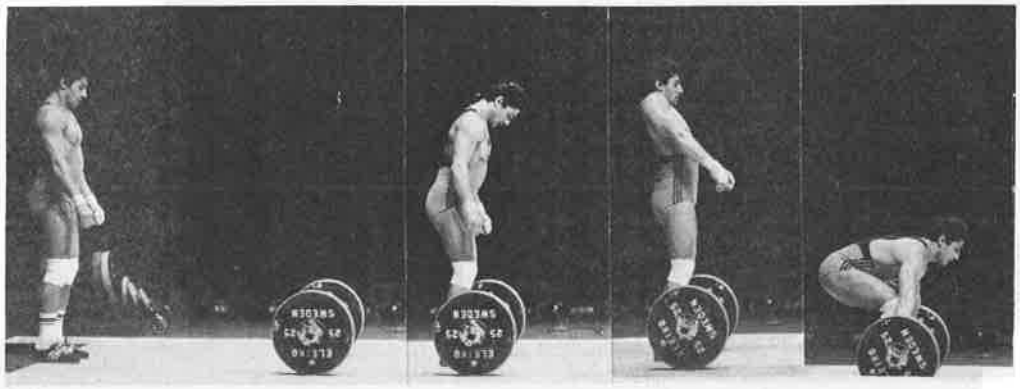
3位入賞をきめた真鍋選手の最終試技
ジャーク 132.5 kg

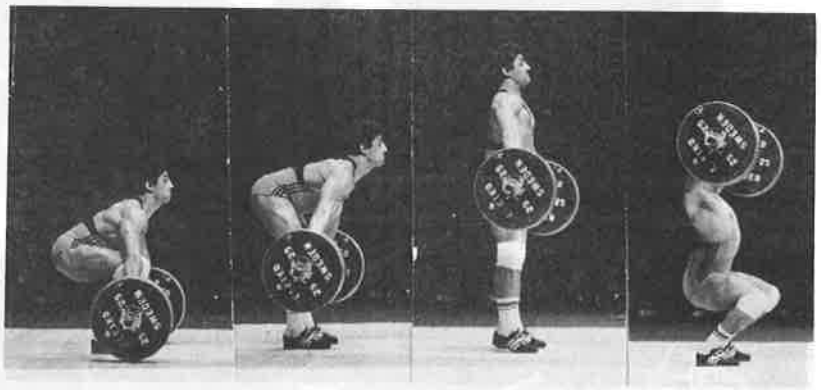
慎重なスタートをきった砂岡，スナッチ 145 kg

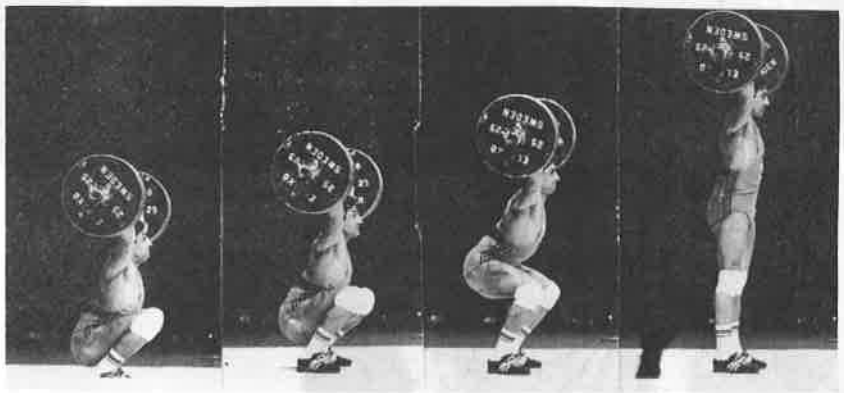
ジャーク 223 kgの世界記録に挑むバルタニアン
（ソ連）

選手控室でくつろぐ
砂岡選手（中央），関口コーチ（左側）
福田監督（右側）

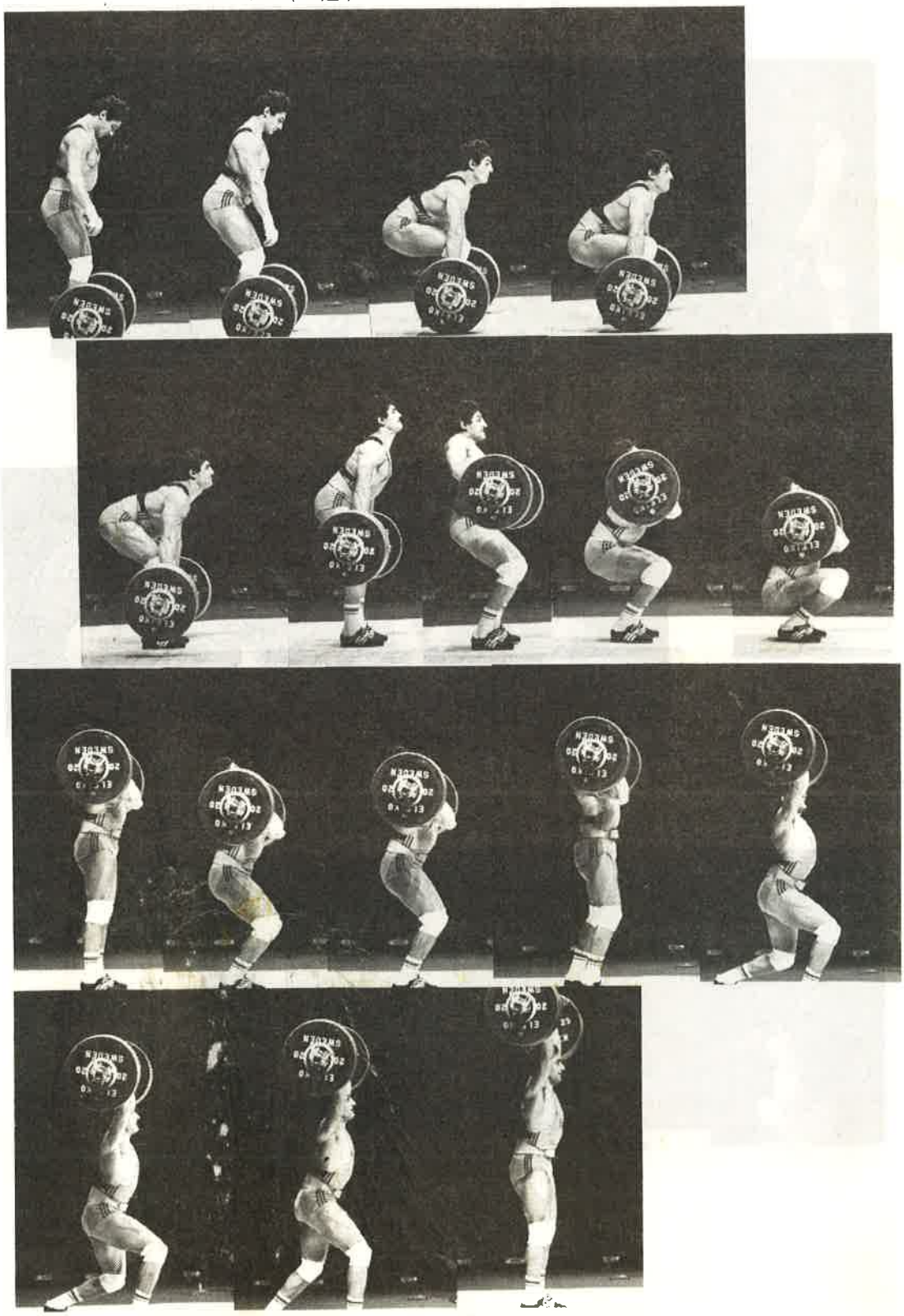
バルダニアン（ソ連）82.5 kg級のスナッチ世界新記録（178 kg）





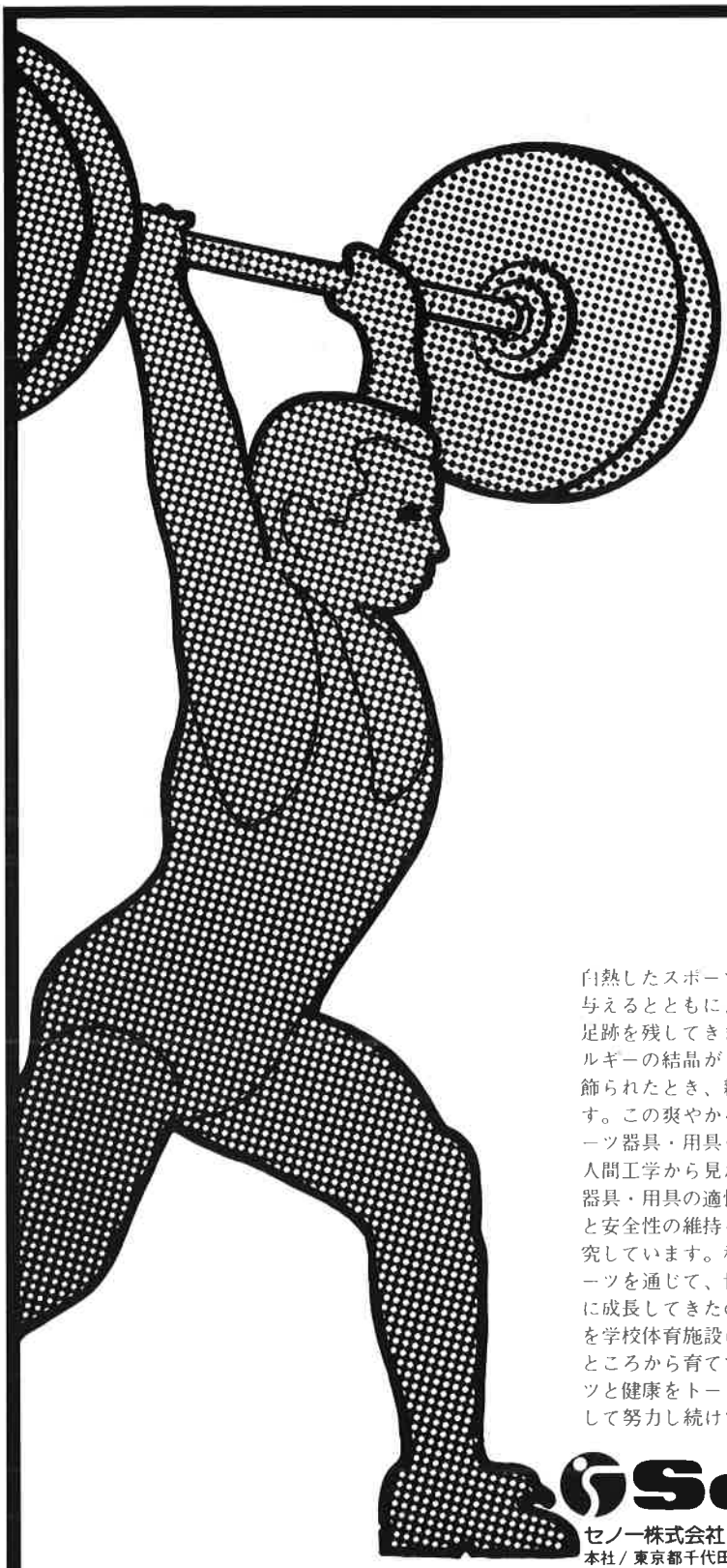


バルダニアン（ソ連）82.5kg級のジャーク世界新記録（223kg）



本誌掲載の訳文、調査研究等は無断転載をお断りします。

ベストを尽した選手たちによって、輝かしいスポーツの歴史が創られたことを、私たちは誇りに思います。



白熱したスポーツ大会は観客に大きな感動を与えるとともに、スポーツの歴史にひとつの足跡を残してきました。選手たちの汗とエネルギーの結晶が“記録”という栄光の数字で飾られたとき、新たな挑戦の道がはじまります。この爽やかな印象の中から私たちのスポーツ器具・用具も、新たな道を歩き出します。人間工学から見たスポーツ器具・用具の構造、器具・用具の適性素材の問題、高い技術水準と安全性の維持など…さまざまな角度から研究しています。私たちセノー株式会社はスポーツを通じて、世界の名選手たちといっしょに成長してきたのです。数多くの経験と実績を学校体育施設にいかし、スポーツを身近なところから育てています。私たちは、スポーツと健康をトータルに考える総合メーカーとして努力し続けています。

Senoh

セノー株式会社
本社／東京都千代田区神田司町２－７　小笠原ビル〒101
☎03（292）5411（大代表）

◉セノー株式会社の生産用品、営業品目
体操施設器具、体育館内施設器具、トレーニング施設器具、球技施設器具、陸上施設器具、トランポリン®、遊園施設器具、水上施設器具など。

ウエイトリフティング N2 (社)日本ウエイトリフティング協会 発行者 (社)日本ウエイトリフティング協会 ☎(03) 815-7[illegible]-[illegible] 内線[illegible]